

道写協

北海道写真協会

事務局 ■札幌市中央区大通西3丁目6道新文化事業社内
011-210-5735(直通) 011-207-3939(FAX)
<http://www.dosyakyu.org/>

第112号

応募点数五、〇〇〇点に迫る ―第五十七回展審査会報告

■二部門制になって最高の応募点数

第五十七回写真道展の作品は、二月一日から十日間募集しました。今回展から募集期間の短縮や応募点数は一人三十点以内と制限を設けるなど、新しい試みをしました。その結果、応募人数は昨年より八名減少しましたが、作品は三三六点多い四八九〇点が集まりました。そのほとんどは、第三部の出品数の増加によるものです。また、支部会員の応募人数は二百二名と昨年より約三十名減少しました。特定の支部の出品数が減ったというのではなく、全体的な減少によるものです。出品しない支部は四から六支部と増加しました。一般の応募は二八一名で、前回より二十名近く増加しています。

また、インクジェット作品は全体の五五、四%を占め、完全に銀塩写真を上回りました。このことは、白黒写真や各部門にも共通しています。



大賞作品の発表をする田村審査委員長

■二日間にわたる厳正な審査

審査は二月二七、二八の両日北海道新聞社の会議室で行われました。田村審査委員長をはじめ招聘の審査員二名を加えて、総勢二七名で厳正に行われました。今回から入選枠を十九点増やしましたので、第五次審査で第一

部一〇八点、第二部四三点、第三部七一点の入選作品が決定しました。第二部で二点、第三部で一点の類型作品による取り消しが生じたのは残念な結果でした。

第六次審査の入賞作品の決定は、今回から全審査員の記名投票方式によって行われました。最高得点を取った杉田良二さん(一部)中神由美子さん(二部)大塚四郎さん(三部)の作品がそれぞれ大臣賞に輝きました。そして、各部一席作品三点の中から第二部の中神さんの「二条放水」が大賞に決定しました。

また、会友奨励賞の選考は、写真協会副会長の武藤省吾奨励賞選考委員長を中心に七名の奨励賞選考委員によって行われました。今年から出品者の主体性を尊重するという趣旨で応募作品は従来の三点以内から一点となりました。六名の会友の出品がなく、五七点の作品を対象に選考が行われました。会友奨励賞には大平博雄さん(苦小牧支部)、準奨励賞には石島忍さん(函館支部)同じく田本實さん(旭川支部)の作品が決定しました。

学生写真道展は昨年を十名上回る二八八名の応募、点数は五十点ほど少ない八四四点でした。厳正に審査の結果、最高賞の「北海道知事賞」には道都大学の山田友人さんの作品「朝」が決定しました。

二日間にわたる過密なスケジュールで審査をしていただきました審査員の方々、綿密な進行プランでスムーズに審査を運んだ進行係の皆さん、並びに主催の北海道新聞社、主管の道新文化事業社の皆さんのご協力により、審査が無地終了しましたことに感謝し、報告とします。

(中野潤子)

心に残る旅がある

心の印画紙に焼き付けたい旅があります。
旅の出会いはフォトジェニック。
カメラ片手に出かけてみませんか。

◆お問い合わせ・お申し込みは
TEL(011)241-6401
ホームページ <http://www.doshinkanko.com/>

営業時間
9:30~18:00
土・日・祝日も営業

旅行企画・実施
安心と信頼の

道新観光

〒060-0042 札幌市中央区大通西3丁目道新ビル北一条館1階 道新プラザ内